

大河原 ロータリークラブ会報

会長：岡崎 隆 副会長：佐々木由美子 広報・IOC 委員長：津田 政行
幹事：庄司 大 副幹事：鈴木 孝典 副委員長：中山 雅之
委員：櫻井 淳一

2022~2023年度
国際ロータリーのテーマ

イマジン
ロータリー
IMAGINE
ROTARY
2022~2023年度IR会長 ジェニファー・ジョーンズ
国際ロータリー第2520地区 天 沼 久 純
2022~2023年度ガバナー

例会日：毎週木曜日 12時30分 例会場：和洋亭ぶざん 柴田郡大河原町字新南 25-18 TEL 0224-51-1113

会長あいさつ

会長 岡崎 隆

2022年12月17日(土) 第2624回 クリスマス家族親睦例会



皆様お晩でございます！

本日は待ちに待ったクリスマス家族親睦会を迎えることとなりました。

ビッグゲストの庄司恵子さん一座による民謡、歌謡、踊りをゆっくりとご堪能いただきたいと思っております。

私が営む会社で仕事をしている女性職員が縁あって庄司恵子さんの娘さんのかすみさんに三味線の弟子となっていることから、たまに庄司恵子さんも大河原にお越しいただき食事など召し上がっていただく機会も何度かありました。

10月に岩手での研修会に庄司恵子さんからお誘いを受け、ご一緒した折に今日のクリスマス親睦会のことをお話したら、コロナで最近はイベントが縮小されていて寂しい思いがあるので、もしよければ出演させていただきたいと伝えられ、

その後ガバナー補佐を交えた5役会、理事会での承諾をいただき本日を迎えることとなりました。宮城県・東北でも指折りの有名な方にご出演いただくことはとても光栄で感謝に堪えません。少なからず3年も続くコロナ禍の中で様々な良くないこと、残念なことがありましたが、今宵だけは存分に楽しんでいただければと思います。

また、先ほどのクラブフォーラムでは会長ノミネーに丸山勝利会員が無事承認されることとなり、2024 - 2025年度に向けてスタートすることとなりましたことも併せて喜ばしいことでもあります。

時間の都合上、最初の40分を皆さんで御歓談いただき、6時40分から歌謡ショーが始まります。その後、記念撮影をしてお開きとなる予定です。

早速、武藤茂親睦委員長にマイクをお渡しすることと致しまして会長挨拶を終わります。

2022年12月26日(月) 第2625回 例会

みなさんこんにちは！

先日はクリスマス家族親睦会に多くの会員のご参加を賜りありがとうございます。

その後ご連絡があり、庄司恵子さんは本当に優しいお客さんばかりで、皆さん以上に私も楽しむことができました。くれぐれもロータリークラブの皆さんに宜しくお伝えくださいとのことでした。それと、お安くするのでまた大河原でロータリーのイベント以外でも皆様の会社等でイベントなどありましたら呼んでいただければ喜んで馳せ参じますとのことでした。よろしく願いいたします。

さて、本日は会員スピーチということで、じん整形外科クリニックの院長先生のお父様の日下潔医師にスピーチをしていただきます。

縁あって久しく大河原を離れていた日下潔会員を偶然お見かけした同級生の方と飲食の場でお会いし、50年ぶりに会いたいと連絡先を渡され日下先生にお伝えしたところ快くご了承いただき、先日私も交えた3人で

先日軽く食事会を開催しました。昔話に花が咲き、大変楽しいひと時でしたが、本日のスピーチのために本当に真剣に取り組んでいることもお聞きしました。石巻の地で震災に見舞われ大変なご苦勞をされたことなど日下先生の力作のスピーチに僭越ですが心からご期待申し上げます。また7月にスタートした私のロータリー年度も本日を境に折り返しとなります。庄司幹事、会員の皆様のお支えに心から感謝申し上げます。

厳寒の季節となりますのでくれぐれもご自愛いただき、めでたく新年を迎えられますことを心から祈念し会長挨拶と致します。

2023年1月5日(木) 第2626回 例会

皆様あけましておめでとうございます！

会員の皆様には輝かしい新春を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

今例会より無事に年度の折り返しとなりました。半年間のご協力を改めまして感謝申し上げます。残り半年間も楽しく親睦も深めながら奉仕活動の充実を目指し、走り抜けていきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

さて、昨年を振り返りますと一番感動したことは何か考えてみました。

やっぱり仙台育英高校硬式野球部が甲子園で優勝したことです。

歓喜のブラボーの大声を出すことも大きな音を出すこともなく、ただテレビの前で涙を流したことを昨日のこのように思い出します。

小さなころから違うスポーツをしておりましたが、甲子園だけは別ものでなぜ東北に優勝旗を持ち帰ることができないのか不思議でなりません。

ダルビッシュや大谷があればメジャーリーグで活躍してもなかなか決勝戦を勝てないことに長年コンプレックスに近いものを感じておりました。

前評判が決して高くない今年の育英高校でした。白河の関を越えて優勝旗を東北みやぎの地にもたらした原動力は選手の力はもちろんですが、須江監督のインタビューの言葉に再度涙しました。この監督あってのこのチームであり、まさに全国で一番噛み合ったチームだからこそ勝ち得た結果なのだと納得しました。

現在も新型コロナ感染拡大は収束にいたるところか更なる感染拡大が大きく懸念される状況ですが、ロータリー活動においては感染防止に努め地域にとっては「密」な活動を継続し、行動制限の無い状況下においてはしっかりと活動に今後も取り組んでまいりたいと思っておりますので、更なる会員の皆様のご協力をお願いし、新年の挨拶と致します。

2023年1月12日(木) 第2627回 例会

皆さんこんにちは！

先週の夜間例会、新年会では本当に楽しい宴を過ごすことができました。

多くの会員の皆様にご参加いただいたことに心から感謝申し上げます。

月初めではありませんが、今月最初の通常例会ですので、誕生記念会員をご紹介します。1月10日武山雄二会員、1月11日立石博政会員おめでとうございます。結婚記念の会員はありませんでした。

さて、今年は兎年です。12年前の東日本大震災も兎年でした。震災関連死も含めると22,000人の尊い命が奪われることとなった地球規模の大災害に誰もが絶望したことを昨日のように思い出しますが、この12年間は復興を阻むかのように頻発する自然災害、令和元年の台風被害や長引くコロナ禍が追い打ちをかけ、復興が進むどころか被災地に留まらず国全体が物価高騰も相まって疲弊していることは明らかであります。地方の置かれる立場もますます厳しくなることは容易に予想できることだと考えます。

行政等の支援策にも期待するところですが、本日は通算4期延べ14年3か月町政のかじ取りを担う齋清志大河原町長にゲストスピーカとしてお越しいただきました。先月スピーチの打診をしたところ年間行事の一つであり、ロータリークラブの皆様への町政報告の大切な発信の機会であるから、年はじめでも多忙な中でも快く受けますよとのお返事をいただき、感謝に堪えない思いであります。

微力ながら私自身も議会を預かる立場として、急なお願いですが現在大河原町として注力する白石川右岸整備事業についても触れていただきたいと思いますと考えております。

この事業は公認パークゴルフ場、ドックラン、芝生広場など今後スポーツ施設の併設等に取り組みられるもので、すでに昨年4月23日には「MTB S PARK」というマウンテンバイクで疾走するプロ監修のコースが完備され、サイクリングロード「おおがわらさくらライン」などのサイクリングコースも利用が始まっており、「おおがわら千本桜スポーツパーク」の全容が皆様にご披露できる日も遠くないとのことです。またこの事業は昨年11月18日にスポーツ庁主催の「スポーツ・健康町づくり優良自治体表彰2022」におきまして北海道・東北の自治体では唯一表彰の荣誉に浴することとなり室伏広治スポーツ庁長官から直接、齋町長が表彰されるという町史に残る実績を収めております。

あんまり誉めると私としては立場が微妙ですが、長年スポーツ振興を提言してきた立場としては、やっと町長がスポーツを通じた健康町づくりに振り向いてくれたうれしさもあります。取り組みに対する評価に表彰を受けた現在、最大の使命は費用対効果に見合う結果を出すことが血税を使われた町民への政治家としての最大の誠意であることを共有し、本日もその事業に対しての想いも存分にロータリー会員にお伝えしていただければと思います。後ほどの齋町長のスピーチを楽しみにしております。以上を持ちまして会長挨拶を終わります。

自治体運営と住民参加のまちづくり

大河原町長 齋 清志 様



皆さん、明けましておめでとうございます、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

ロータリーの活躍に驚いております、実は私ライオンズに入会しております、年に1回か2回ぐらいしか出席できない状況で大変恥ずかしいのですが、我が町の活力・元気を今日ここで確認をさせていただき、また大いに期待をさせていただいたところでございます。何卒よろしくお願いいたします。貴重な時間をいただきまして重ねて御礼を申し上げる次第です、また日頃こうして拝見させていただきますと本当に幅広くそれぞれの立場で町政全般に亘りまして大変なお力添え頂いております事を本当に実感するところでございまして重ねて御礼を申し上げる次第です、有難うございます。

さて本論に入らせていただきますけれども、先ず役場は、経営以外の何ものでもないというのは私の実感でございます、私が最初に役場に行った頃からしますと様変わりしている、認識を含めまして様変わりしていることを強く感じます、役場に行って経営だと言う話をしましたら、役場は運営ですからというふうに言われ、私よりも年上の管理職の皆さんにお叱りをいただきました、でも今役場は経営だと言って批判されることは全くないです、生産性なんていう言葉を使ったら雲の上から大変な勢いで怒られましたけれども、今役場が問われているものは生産性でございます、そういった事についても批判の目はもう全くないです。環境の変化に対応しきれなければ破綻とまでは言いませんけれども厳しい状況に追いやられる、これは民間企業の皆さんばかりではない行政もまた町事態も全く同じというふうに考えているところでございます。

さて、コロナも3年が過ぎ間もなく4年目に入ろうとするところです、大変なコロナに追われるような日々を送ってきているというのが多くの方の実感かもしれませんけれども、スペイン風邪は実はこれを乗り越えるために10年かかったというふうに言われておまして、先ずがっかりするような話で恐縮ですが、ある意味ウィズコロナが前提ですがしかしまだまだ長い戦いになるという覚悟も必要なのかなというふうに受け止めているところでございます。いずれ国は分類を変えてインフルエンザと同様の対応という方向に多分流れていくのだと思いますけれども、それであっても制約される日常というのは残念ながらとりわけ生活実態が厳しい方々、弱者といわれる方々に重くのしかかって行くのではないだろうかというふうに考えているところです。

今、社会全般を見てすごく気になってしまうことがございます、それは「格差の拡大」ということで社会全体も様々な格差があるわけですがけれどもコロナがこの格差に拍車をかけたということは間違いがない事実だろ

うというふうに思います。経済も去ることながら雇用そしてまた盛んに積極的な取り組みが求められる情報もそうでしょう。また子ども達を取り巻く教育の現場においても非常に格差が広がっているということを実感させられております。弱者という意味では女性子供そして所得の低い高齢者世帯その実態はなかなか厳しいものがあるというふうに受け止めております。

役場にいますと、今日の皆様もひょっとするとそういう側面もあるのかもしれませんが、平均値で見ても平均値はどこまでいっても平均値なのです、一番厳しいところ一番いいところをやっぱり合わせて見ていく必要がある、私も現場主義的な色々な理念や考え方を盛んに言わせて頂いてきました。けれども実態を把握するという事についての重要性は今まさに立ち返って考えると更なる環境の変化に対応するという事で役場の仕事としても非常に重要な視点となっています。今改めて現場主義現場対応現場確認することを大切に位置づけているところがございます。地方創生にもつながる白石川の河川敷等の整備事業の中味につきましては、もうすでに岡崎会長が全て喋ってしまった状況というふう感じたところですが後ほどこの点に触れさせていただきます。

さて、自治体を取り巻くまちづくりにつながる切り口として重要な取り組みが地方創生の対応になるかと思っております。この地方創生の対応は、皆さん綺麗な言葉で良く使いますし、極めて大事な事という認識でおります、国策だからと言ってしまえばそれまでですけれども、地方創生関連予算の活用とかですね、様々な地方創生について前向きな取り組みをすることに努めてきたわけですけれども、実は地方創生で使うお金は当然税金なわけですので、生み出していくという事が求められても自治体は中々そうはいかない側面がございます。そこに自治体間の競争というのが生まれてきておまして、ここにも格差が自治体間の財政基盤だけでなく格差の広がりというのが散見されるというふうになっています。悪い言い方をすると、地方創生は勝者のいない競争としてあおられている、あるいはもっとひどい話ですと地方創生でパン食い競争をさせられているみたいなその様な言い方があって、行政で仕事をする我々としては非常に共生意識を欠く批判が気になって気になってしょうがない、我々の住む地域でも仙南だけでも9つの自治体がある訳ですけれども、実は相当な格差生まれているという事が言えるように思っております、仙南は今、人口が昨年一年で振り返っても1年間で2,500人近い人口減少になっているはずで、子どもの人数は600人を超えて年間で減っていく、働き手も、皆さんに直結しますけれども働き手もすごい勢いで減っている、高齢化率は全体であつという間に35%を超えました。我が町を自慢するわけではありませんけれども一昨年は人口増加率宮城県第一位という事のでございました。昨年残念ながら一年間で17人、人口が減ってしましまして、増えた所が4つあるという事ですから、多分大河原町は増加率で言いますと上から5番目という事になるかと思っておりますが、23,600人の中の10数人ですので実態としては人口を維持しているというふうに言っているのかなと思っております。子供も生まれる子どもは昨年120人程度になってしまったと思っております、多い時は250人・260人その様な状況でしたけれども激減です、コロナもちろん関係ありますが凄い勢いで減っています、人口が同じ規模の美里町の町長に昨日あなたの所で去年何人生まれたのと聞いたら90人代半ばだなという話でしたので、まだ大河原町の方が多という事が確認できました。しかし生まれる子供が減って亡くなる人が300人超えてとんでもない人口自然減ですけれども人口が減らないのは社会増、移り住んでくる人が居るからですね、子供の数が減らない2,000人毎日給食を2,000食作っていますから、若い人が移り住んでくれると子どもも移り住んでくれます、ですから生まれる子供は少ないのですけれども、子ども全体の数はあまり減らない、この状況で働き手も減っていないのですけれども、あと4年5年位この様な状況がぎりぎり続いていくかなと、しかしそれから先は凄い勢いで子供の数と働き手の数が減っていくという予測が出されております、5歳区切りで人口の分布を書きますと、働き手の中で今一番多いのが50～55歳、次は45～50歳この様に町にとっては、納税、税金を納めてくれる大変ありがたい存在な訳です。これは言うてはいけないのですけれども、本町は実は税収も減っていないという大変ありがたい状況ですので心から感謝申し上げる次第です。その様な状況に我が町はありますが、2市7町では正直その様な自治体はありませんので、皆さんもよそでは話さないようにご協力をお願いしたいと思います。この格差がどんどん生まれていく中で警戒している言葉があります、近隣自治体の市・町長さんにもよく言われますけれども、「そりゃ大河原はいいさ」と言ってバツサリ大河原だけが除かれる、このことに凄い危機感を持っています、これをやっていたら自治体間の連携或いは広域連携は成り立つはずがないですよ。観光事業がひょっとしたら大きな広域連携の成果を生むかもしれないと思っておりましたけれども、

コロナ禍でインバウンドがゼロという事になって、この連携も崩れてしまいました。その様な中で我が町としては、自転車を活用した町づくりとして、何とか2市7町を繋いで行こうという事で、サイクルツーリズム推進会議を立ち上げて、私が会長で町が事務局という事で頑張ってきましたけれども、しかし中々花が開く状況にはなれない、いろんなことを考えながら町の仕事を進めてきましたけれども、住民のみなさんを巻き込んでいくという視点のまちづくりとは本来何なんだろう、果たして役場は町づくりをしてきたのだろうかという壁にぶち当たりました。その様な事を考えながら河川敷ですが、せっかく県は3億7千万円位のお金を入れてくれて、町もお金を出しておりますけれども、後押しを頂きながら頑張ってお金を進めてきた。しかしハード整備だけでそこに住民参加の切り口が生まれてこないようでは、役場の仕事はいったい何なのだろう、もう一度考える必要があると考えてきたところです。一方、今マウンテンバイクパークを進めています、子どもたちを中心に、平日は開いていないのですけれども、天気の良い週末・祝日を見ますと本当に賑やかな状況がうまれております。自転車協会でプレゼンテーションを行いながら後押しを頂き、メジャーなものにしていこうという事で努力してきました。まだまだ成果が出ておりませんが、私がTBSのラジオ放送に全国放送に7分だけ出たのですけれども誰も聞いていないかもしれませんが、全国からしますと結構反響があって、やはり自転車協会のような民間の力、民間の組織を活用させて頂いて住民のみなさんに訴え掛けていくことが大事なのだなと強く感じたところでございます。住民参加・官民協働を求めていきたいと考えているところです。

さて、桜まつりが3年間連続して中止になりました、先ほどご紹介したさくらの会の櫻井会長もいらっしやいますけれども、さくらの会のようなしっかりとした組織を持っているところのお力添えに期待しているところでございます。今年は、高山開治郎氏が植樹をしてくれて100年、植樹100周年を迎える年になります。あらゆる機会を通して活用させて頂きながらこの一年間住民のみなさんを巻き込むという意識を持ちながら、つまり町づくりという意識を持ちながらかわりのある関連事業として進めていこうと思っています。桜はわずか10日長くても2週間、短いと1週間ということで、開花時期はすぐ終わってしまう事ですけども、これを夏祭りにもオータムフェスティバルにも、冬のイルミネーションにも、あるいは町が実施する様々なイベントについても、一目千本桜植樹100周年という事で活用してマスコミも呼び込んでまいります。そして町民のみなさんの桜への思いを復活と言いますと怒られてしまうかもしれませんが、もっと強く持って頂いて住民参加につながる意識を醸成させていただくことができたらいいなというふうに考えているところです。是非、ロータリアンのみなさんにもお力添えを頂ければというふうに思う次第でございます。

切り口がいくつかあるので先に進みますけれども、今大河原町が宮城県で第1位と言い続けて4年ぐらい経つ事がございます、子どもたちの学力も2年間は1位だったのでございますけれども、今は1位とまでは言えないですが、現在も続く第1位はさあ、何でしょうか、「元気で長生きの宮城県第1位」が大河原町です。知事もある会合で言ってくださったので、非常に嬉しい思いをさせて頂きましたけれども、平均寿命と健康寿命とがありますね、これは近ければ近いほど良いわけでございます、元気で長生きという表現につながる訳ですが、この健康寿命と平均寿命の差これが不健康な期間という数値化されたものになりまして比較できるという事になります。これを比較すると男女とも不健康な期間が一番短いのが大河原町です。女性は健康寿命も一番長いです、男性は宮城県で第3位、これは大変重要な事で我が町の国民健康保険これは特別会計になっています、介護保険も特別会計になっています、議員さんも沢山いらっしやいますが、近隣だけじゃなくて宮城県の中に於いても極めて健全な状況で推移しています。特別会計に一般財源をつぎ込んで苦勞している自治体が沢山あります、これから多分超高齢化社会に向かっていく中で様々な課題を新たに抱えていく、あるいは背負いきれない現実がうまれて来る可能性は沢山あります、しかし大河原町はいろんなことを先取りしながら住民のみなさんの健康意識の高さにも支えられて非常に有難い状況です、宮城県国保連合会の副会長をさせて頂いておりますけれども、大河原はやっぱりすごいねと言っただけなので、天狗にはなりませんけれども鼻高々でいつも会議に出席しているところです。介護保険も対象者というものは当然増えてきます、認定を受ける対象ですけども、近隣の人口半分の自治体よりも実はその認定対象者が大河原町は少ない、そんな現実があって介護保険の認定率が宮城県で一番低いダントツに低いという状況になっていますこれはあまり自慢話にすることはできないことでもありますけれども結果保険料が全国で4番目に低いという現実でございます。国保もいろんな町の政策的な努力が結果を高めているということで表彰制度やインセンティブ制度があって、それも人口規模別で全国で3位だったり1位だったりすごい実績が生まれております。実はこのように非常にありがたい状況が生

まれています、これから先に繋げていくために健康づくり当然いろいろ仕掛けていかなきゃいけないわけですが立ち返って白石川右岸の河川敷、今ウォーキングロードサイクリングロードについて岡崎会長のご紹介もありましたけれども完成して朝昼夜も歩く方が非常に多くなっています、冬場はトイレが近くなりますがどうしてもトイレがないと歩けないって女性の方々に怒られましてトイレを付けました、これが非常に喜ばれまして、これから毎日散歩できる、もし時間があつたらどれだけ多くの方が今健康づくりに目覚めてきているかということを実感していただける現実があります。結局歩いて健康づくりをする人はどんな自治体においても5%超える位いるそうです、しかし歩きたくなる環境が生まれなかったらそれは実はそれ以上に高まることはないですね。大河原町は今そのことに挑戦し、そしてまたこれを住民意識につなげていく努力をしています。千本桜スポーツパークとしてパークゴルフ場・ドッグラン・芝生広場を整備しました。そして堤内地整備につなげるために、田んぼの売買に同意頂く必要がありましたが全員の方々に無事ハンコをいただきまして買わせていただくということが確定しております、来年度の予算に建てていきますので議員の皆さんよろしくお願い致します、そういうことで田んぼ側の取り組みにもいろんな進め方が当然あるわけですが私の中の思いとしては民間の皆さんの力をぜひお貸りしたい。そして住民参加か住民参画参加をどういう形で促すことができるのか、これも言っちゃいけないんですが実は住民参加がうまくいけば行政コストが下がります。つまり住民の力は絶大なのです、役場の仕事をしていくつくづく思います、みんな住んでいる方々が手伝ってくれたらかかるお金が下がっていく、先に話した健康意識なども実はそういうことなんです。ここに隠れた大切な町づくりの視点があるという風に受け止めておりましてこれを一つ一つ着実に実行していきたいと考えております。今国は新しい資本主義に、あまりふれては無いですけども岸田総理大臣が頻繁にデジタル田園部分国家構想やデジタル化ということ 키워ドにこれから地方の再生を計りながら一極集中の是正とかいろんなことを考えながら最終的には全国どこに住んでいても誰にとっても便利で快適な地域づくりというものを地方で進めたいということを実践されはじめております。具体的な切り口が見いだせたわけではありませんけれども町としても 副長町を本部長とする新しい体制を立てて自治体DXによる住民サービス向上のための取り組みが始まります。しっかり進めていきたいということで考えておりまして、課題であるデジタルデバイトや都市国家構想に基づく具体的な取り組みとして今後話をさせていただくことになると思います。ここにも住民の皆さんの力をお借りして、住民の皆さんとともに進めていくという姿勢をしっかりと植えつけて行きたと思います。ここにも不安は当然あります。デジタル化、そんなのついていけないよ、こんなこと言われたって私はできないスマホも持ってないなど、こういう現実には沢山あるわけでございましてデジタルデバイトやこの格差を乗り越えていくための政策が町にとっては重要な取り組みです。

さて話は変わりますが私もいろんな切り口で知事に意見を言ったりするのでですけども知事に最近盛んに確認させて頂いてるのは県は市町村あつての県ですよということ、本当は知事自身がおっしゃっていることですので、「そうです。」と言ってもらわないと話にならないわけですがこのことを問いかけて続けています。合庁へ行って志賀所長にも県は市町村あつての県だよなというふうにはひとりごとのように言って帰ってきます。そうしたらこのあいだ町は住民あつての町ですよ、本来大事にしていかなくてはならないものを、コロナ禍の厳しい環境の中ではありますがもう一度確認して欲しいという話がありました。私としては時間の無い中ですけども町づくりへの挑戦を通して、改めてこれまでの取り組みを検証しそしてこれからの取り組みは住民目線を大切に行政対応として、実現を図って参りたいと改めて考えているところでございます。最後の話になりますが、役場の仕事をしていたら災害防災減災を含めて人の命を守ることが最も大事な仕事だという事を常に言い聞かせてきました、私は薬剤師です。医療人の端くれです。命を守る医療に対しては人一倍注力して頑張ってきました。具体的にはみやぎ県南中核病院の医療機能の向上など、行政だけでできることではありませんけれども企業長・病院長・或はスタッフに常に問いかけながら人の命を守る対応に努めてきたところです。そして国県は地域医療の仙南版ということになりますけれども医療機能の分化と集約化という視点でこれからの進む方向を示しています。その流れの中で仙南地域の命を持っていく役割ということになるわけです。中核病院は1市3町の病院です。角田市・柴田町・村田町・大河原町が開設者ですが、今、救急搬送されてくる方の半分が入院する状況の中で大河原町は白石市に抜かれていますし、蔵王は丸森にも追いつけられて患者が最も多い柴田町がひょっとしたら白石市にも抜かれているかもしれないぐらい、つまり1市3町以外の入院患者さんがどんどん増えているのが現状です。地域救命救急センターですから来るもの拒まず

で当然その様な状況にならざるをえない訳ですが、ここで大事なことは人口が物凄い勢いで減っていくと先ほど話しましたが4年間で10,000人減っていく現実です。これからその様な中で中核的な医療を担わなければならない使命感だけで医療機能を高めて行ったらいずれ人口が減って患者がもっと減った時に財政的にはばんざいになりかねません。この見極めをどうするのか、つまりどこまで中核病院の医療機能を高める必要があるのか。今107人の医師がいます、医療資源がなければ医療機能が高まらない訳で、これまでは医療機能を高める努力を続けてきた訳です。しかしどこまでも高めきっていく事はできないし、何時の時期かに中核病院の医療機能はここまでという事を決めていかななくてはならない、私はこれを覚悟と言っていますけれども、将来への過剰な投資は許されないのです。人の命を守る対応は変わらないのですけれども、しかしどこまでも機能を高め続けていく事は出来ないという事に住民の皆さんにご理解を得ていかななくてはならない状況が生まれてくる。担う役割がどんどん高まっていく中で、これが今本当に深い悩みになっております。なんか人口減少社会の非常に残念な話になってしまいましたけれども仙南地域における我が町のポジション立ち位置そのことを十分理解しながら、しかし共生意識のもとに積極果敢な町づくり、住民の皆さんと共に進めて参りたいと考えているところでございます。

雑ぱくで拙い話でしたが、ご清聴賜りまして心から感謝申し上げます。有難うございました。

2023年1月19日(木) 第2628回 例会

皆様こんにちは！

新型コロナウイルス感染症による罹患者数は依然として県南でも高い数値となっておりますが、国策としては春ごろには2類相当の現在の扱いから5類へと移行しようとする段取りが進もうとしているようです。

このことはマスク着用が無くなること、外出制限がなくなることでもありますが、私はきな臭いなと感じております。なぜなら感染状況が今のままで5類に移行するということは国民の健康・安全を守ろうということ置き去りにして、5月19日から議長国日本として開催される広島サミットでの見栄えを考えての閣僚の策略とも受け止めているからです。世界中にはマスクの着用を義務化していない国もありますし、今回の先進7か国もほとんどマスク着用なしで首相や大統領は登壇することでしょう。その中でなぜ岸田総理だけがマスクをつけてるの、日本は感染対策の後進国なのという印象を世界に発信することを懸念しての5類への移行なのかなと疑っております。当然5類に移行するにあたり段階的に医療費や予防接種等はインフルエンザ等と同様の扱いとなりますし、何より職場、学校、公共スペースにおいては隣に感染者がマスクなしでいることが日常になることとなります。

そこで、大河原ロータリークラブの当面の取り組みとして5類移行後もマスク着用での例会開催、もちろん夜間例会も同様に開催いたします。マスクは不織布が好ましいと考えます。

正しく恐れるためには国策に従うことではなく主体的に我々が考えることが大切なことをこのコロナで学べるかどうか人類に課せられた試練とも受け止めておりますので、今後とも会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、報告漏れがあるといけないので再度アナウンスさせていただきますが3月の第1土曜・日曜日、4日・5日はロータリーカップサッカー大会が開催されますので、多くの会員の皆様にご参加いただきたいと思います。また約2週間後に開催されます創立記念移動例会もほぼ出欠の取りまとめが終わり20名の参加となりました。

乗合の方は1名だけでしたので、現地集合の時間を近日中にお知らせいたしますので宜しくお願いいたします。

震災後の障がい者たちによる社会活動について

名もない花たちの会創立メンバー

パンの花創作作家・語り部 雲走 範子 様



お話しさせていただきたいと思います。雲走と申します、よろしくお願い致します。

初めましてと言いたいのですが実は 20 年ぐらい前に自分の病気についてお話をしてくださいということがあり、まだ平井先生がお元気な時だったと思うのですが、この場所でお話をさせて頂いたことがありました。平井先生から何かあったら手伝えることがあったらいつでも手伝うから言ってくれとおっしゃってくださったのを昨日の夜思い出しております。また明増寺の佐々木由美子さんとの出会いもあって、お招きいただいたことにととても嬉しく思っております。本当にありがとうございます。

私は今、仙台のグループホームに住んでいて、そこは視覚障害者用に出来た網膜の先生が立ち上げてくれた所なのですが、私の目はもともと病気があって進行性の目の病気だったものから、それと別にいろんな状況が出てきて硝子体出血を 10 年間ぐらいに何度も繰り返し、手術もしなければいけない時があって 2、3 回手術をして、仙台で手術をしたのです。仙台に通うことが多くなり、自分が行っているパンの花とか語りも仙台の方が結構仕事が多かったのでグループホームを立ち上げた先生から「どうする、住んでみるか」とお話を頂いて、「それじゃ仙台に移ります」ということで大河原の自宅と行ったり来たりしながら今生活しております。

目が不自由だと何もできないと思われがちなのですが、確かに今日も手伝ってくれる人と一緒に来ましたけれど「工夫すればできないことはない」という気持ちが自分の中にあり、実の母親が従軍看護師だったので「手に職を持ちなさい、何かできるものを持っていなさい」というのが小さい時からの教えだったので看護師か保育士どちらかを選んだ方がいいんじゃないのということで保育士を選んだんですけど、自分の目の病気が分かってそれも進行性の目の病気ということで「じゃあ何をやるだろうか、保育士もできないし何をやって行ったらいいんだろうな」と目が不自由でも何かできるものはあるはずだと、自分で思って出会ったのがパンの花でした。

もともと小さい時から絵を描くのが好きだったので絵描きさんになりたいなと、小さい時思っていたのですが絵はもう書けません。けれど指で形を作っていくという、そういうのだったらまだ何かできるかもしれないなと思ってる時にこのパンの花に出会って、大河原にある三越の 2 階で教えていたのですが、そこで教えてる先生と出会い、教えてくれていた先生も福祉に力を入れていた浅野史郎さんの中学校の同級生の方でした。目が不自由ですが、全盲になる日と自分のパンの花の資格を取れる日どちらが先だろうかと思いつつ、とにかくやってみようと思いつつ何か 7 年ぐらい時間かかりましたけれど資格を取ったり、目が駄目だったら口で喋れば良いと思い、語りを始めたりやっていたのですが、そうしているうちにあの平成 23 年の大震災が起こり、その時はたくさんの方がボランティアをしたり、炊き出しをしたり一生懸命支援をしていたのですが「私たち視覚障害者は何もできないだろうか、いつも行ってもらうだけなんだろうか、自分達も何かできることはあるはずだよ」という話を同じ仲間の視覚障害者の人としてしました。直接何か手伝えることはできないけれど私たち視覚障害者が団体を作って、そこに賛同して「一緒に手伝うよ」という請願者の方がいれば何かできるよなということで始まったのが「名もない花たちの会」という団体です。

自分たちの儲けのためにやっているのではなく、ボランティア活動ということで視覚障害者の社会参加と、何か世の中の役に立ちたいという思いで始まった団体です。平成 23 年の 3 月に震災があり、4 月には名もない花たちの会主催でイベントを開催しました。常盤木学園のシトラウスホールで仙台はどこもそういうイベント会場は使えない状態になっていたのですが、常盤木のシトラウスホールだけは壊れていなくて使えたのです。午前と午後とそこを使う予定の人がいて「午前中どうですか」と、使っていていいですよと言われて、何もない花たちは午前中そこで音楽をやっている演奏家の人たちと一緒に語りもやらさせて頂いて、募金箱を置きお客様に入れて頂いて被害のひどかった地域に寄付をするという活動をずっと続けてきました。23 年・24 年・25 年頃までは 1 年に 3・4 回出来ました。お客様もたくさん来てくれて何回も寄付できましたが、だんだんお客様も来なくなってしまい高齢化にもなり、なかなか出て来れない状態の人も多くなったり、コロナで出て

来れないこともあったりして1年にやっと1・2回やるという状態だったのです。それでそうなるとやはり私たちは元々資金があって活動しているわけではないので、募金箱にお客様が入れてくださった寄付金を一緒に活動してくれた人たちの思いとかも入れて、被害に遭った地域に寄付をするっていう形でやっていました。その寄付をした金額の寄付金控除というのがあるので、それを次の年の活動費にというふうにして活動していたのですが、なかなかそれもできなくなってしまい、去年はウクライナと宮城県内はほとんど寄付が終わっているので福島飯館村に寄付をしました。でもそんなに寄付金控除が戻ってきてもそんなにはないので来年か今年も活動ができるかどうかという状態までなってしまい、明増寺の住職さんは音楽をやられている方なので一緒に出て頂けたらいいなという話もしていたのですが、何かいつになったら実現できるかという思いもあり、今日このようなロータリーさんでお話をさせていただく機会ができたので、是非募金箱も持ってきたのでご協力いただけたら嬉しいなと思っています。

「名もない花たちの会」は代表が薬科大の方で、すでに退職したのですが去年の3月までドイツ語の先生をしていた方で、司会進行してくれている人も盲導犬を連れている盲人の方で、そこで語りをしているのが私なのですが、一緒に音楽をやってください毎回いろんな方に出演していただいているのですが、国籍も問わずプロアマも問わず障害あるなしも問わず一緒に同じ思いで行ってくださる方に協力を頂いて、丸11年やってきました。今年が12年目ですけど今年はどうだろうかな、できるかなというふうに思いながらおりました。新聞にも何度も取り上げて頂き、NHKのニュースにも出して頂いたことがありましたが、なかなかお客様は来てもらえないというのが現状なんです。仙南の槻木学習センターだったと思いますがそこで行った時に、大河原町の親と教師の手をつなぐ会のハンドベルの子供たちが出演してくれて、そこで指揮をしていた方が明増寺の住職さんだったんです。そこでも1回お会いしていたけれど直接お話しすることはなかったんです。今はもう指揮者の方は違う方になりましたが、仙台の五橋の福祉プラザでやった時、ハンドベルの子供達に仙台までわざわざ来て頂いて演奏してもらったんです。そうしたらもうお客様はすごく喜んで、子供達が立派に一生懸命ハンドベルを演奏していて涙が出たよって言って帰っていったのです。だから障害があるとかないとかではないと思うのです。やはり一生懸命生きると言うか、それが大事なことなのかなと私は思っています。

私の父親も母親も、近衛兵だった父方の祖父母もみんな亡くなっていますけれど、私は目が不自由で大変なことが多いのですが、やはりちゃんと自分のできることをたくさんの方に手伝っていただけないとできないのですが、手伝っていただけることで自分がきちっと生きがいをもって生きていくということ自分が、亡くなって父親や母親の所に逝った時に「よく頑張ってきたね」って目が不自由でもというふうに思ってもらいたいな—といつも思っています。

それでどこが悪くても一生懸命生きようというふうに思っていますし、こんな活動をしてると、いろんな方に出会うけれど、ある時大河原から電車に乗せてもらったあの駅員さん。乗せてもらう時は一番最後の車両に乗せてもらうのですが、同じ車両の向かい側に見覚えのある男の人が座っていました。私のこと覚えていて「雲走さんどこへ行くの」と言われて白石から乗って映画を撮っている方だったんですけど、ちょっと見たらそこにあの車椅子の女の人がいたのです。我妻さんと言うのですが、「どこへ行くの」と言ったら、「いや今、彼女と一緒に仙台駅まで行って仙台駅からみんなでレンタカーを借りてそれに乗って南三陸の方に行くんだよ」と言われたんです。仙台駅で降りて車椅子の30代ぐらいの女の人だったと思うのですが、南三陸で地震のあった後ボランティアに来ていたそうなんです。

その後、自分が病気で車椅子になってしまったと。「自分はやはり何も分かってなかった、自分が車椅子になって初めて大変な人たちの気持ちがわかったんだ」と涙を流しながら話してくれたんです。いろんな方に会って私だけが大変じゃないって、もっともっと大変な人たちがたくさんいる。それで誰もが病気をしないわけでもないし怪我をするかもしれない、みんな一緒に共存していける世の中にならなきゃいけないと思いますし、視覚に障害があっても出来ることで皆さんに理解をしていただいて受け入れていただいて、ともに生きていけたらいいなと言う、そういう世の中になればいいなと思っています。

今日は一緒に男性の方が来てくれたのですが、実は仙台に行ったら女性の方はあまりいなくて、手伝ってくれる人が男性の方が多いのですね。今日一緒に来てくれた方は「あさりせいじ」さんという方なのですが、何もない花たちの会イベントの時も私の花とかいろんな荷物を運んでくれたり、イベント会場でステージを手伝ってくれたりとか、それから音楽も自分でやっているのですがステージに出演してもらったりということもありましたし、同行援護というガイドさんをするのにその資格がないと更に深く入り込んだ仕事ができないのです。

代理で名前を書いてあげるとか、いろんなガイドさんでも制約があるみたいで、その同行援護の資格も取っている方で私もよく分からなかったのですが、コロナの前は東京でもあの一か月に1回手伝いに行っていてインクルーシブ東北の支部長もやってらっしゃる方でしたので、今日は代表も一緒に来れたら良かったのですが、代表も目が不自由で全盲状態になってしまい、函館の国立リハビリセンターに6ヶ月入っているのです。来れないので今日来てくださっている、あさりせいじさんに代わりに行ってくださいってお願いして今日来ていただいたのです。

あさりさん是非なんか一言お願いします。せっかくなので。

お手伝いして下さる方がいないとやはり引きこもりになってしまい外に出る事はなかなか出来ないし、自分の事だけで精一杯なのに人のことまでも、というのはもちろんあるのですが、でもそれではいつまで経っても何も変わらない、支援をしていただく、お手伝いをしていただくことで少しずつ共存していける世の中になればいいのかなという、先ほど言ったように誰もが病気になるかもしれないし怪我をするかもしれないと思っているので是非福祉の面でも大河原がどんどん良くなって理解していただける大河原町になるといいなと思っております。

今日も募金箱を持ってきたのですが、それを作ってくれたグループホームの職員の男性の方が手伝ってやるよ、作ってやるよって言われて今日の朝出来上がって持ってきてくれました。その方は土木の監督さんをしてきた人だったので、この様な事はやったことないけれどと言いながらみんな親切でお互い様だっという気持ちで手伝ってくれているのでとてもありがたいなと思っております。

視覚障害者は色んな病気で障害者になる方もたくさんいると思うのですが、是非お手伝いをしていただけるととても嬉しいなと思います。みんなが自分らしく生きていけるのではないかなと思いますので是非よろしくお願いします。

今日は五光製作所の藤江祐佳里さんがいらしてくれて、何十年ぶりでお会いしたのですが、おじいさんのお子さんと私の子供が同じ二人とも同級生なので保育所で私が手伝いをしている時に下の娘さんを持ったことが、手伝ったことがあったので懐かしいなと思いながら、娘さんは今どんな風に生活をしてるのかなと思いながら小さかった時の事を思い出しておりました。

目が不自由でよく花が作れると思われるかもしれませんが、どんなふうに見えるかと言うと外が明るい時とこの部屋の中の暗い時とかでも見え方が全然違って、時計をしてきたのですが白黒反転じゃないと見えないうし、またこの暗さだと全然時計なんかしてきても見えないうし、花も作るのにこのような暗さだと全然作れないんですね。それで部屋はいつも電気つけっぱなしなんです。もったいないけれど見えないので電気をつけて、花を作る机の上にも両側から電気スタンドをつけ明るくして、電気スタンドのすぐ下に持ってきてそれで作っています。よく作るなと言われますが、やはり見えない部分がたくさんあるのでそこはチェックしていただいたりして、この色違ってるとか、おかしいよ、変なのが付いてるとか、この形おかしいんじゃないとかいうのが、全く見えないので見てもらったりもするんですけど。でも、自分の作品でいいんだよって言ってくれる人もいて、綺麗に作れる作品を作れる人に任せておきなさいって、自分で自分の花を作ればいいんだよって言ってくれる人がいたんですね。それで全盲になったら全部真っ白の花を作ればいいって、色をつけなくて花も茎も葉っぱも全部真っ白にすればいいのよって、それで見た人が何色にしようか何色に見えるなと言って、見た人がそれを色付けすればいいというふうに言ってくれる方もたくさんいるので、これから全盲になったらどのようなかわからないけれど、今はもう全盲に近い状態になってるんですけど文字はマジックで大きく書かないと見えない状態なので大変なんです。でもこれからも頑張って作り続けたいなと思っています。

それに展示会も仙台に行ってから一度、一番町にある清月記のコンシェルジュで3週間ぐらい、やらせていただいたのですが会場費が掛かったりとか色々あって出来なくなっているんですね。それで是非、大河原でも展示会をやれたらいいなと考えておりますし、レンタルも行っております。1ヶ月1,000円でレンタルは安いねと言われます。大きな作品だと2,000円になることもありますけど是非ご利用頂けるととても嬉しいです。視覚障害者の励みになりますので是非宜しくお願い致します。

今日は本当にありがとうございました。まとまりのない話で申し訳ございませんでした。

2023年1月26日(木) 第2629回例会

皆さんこんにちは！

20日の大寒を過ぎて、2月4日の立春まであと10日というところで10年に一度という強烈な寒波がやってきました。町内でもマイナス10度に達するほどの気温となり、この2・3日は布団からでるのをためらうほど朝は特に冷え込んでおります。まさに今が寒さの底ですが、来週の日・月曜日29日・30日はまたマイナス10度の冷え込みの予報もあるので会員の皆様には特に健康にご留意いただきたいと思います。

さて、2月4日の創立記念移動例会が21名の会員の参加により開催されることとなりました。時節柄お忙しい時期に多数のご参加に副会長副幹事とともに心から感謝申し上げます。取りまとめの結果皆さんが現地集合、現地解散となっておりますので、まだ寒気が緩んでいないと考えますので移動の際の事故等には十分にご注意していただくことも併せてお願いいたします。

宿泊の際の二人部屋の割り当て等は後日幹事からご案内申し上げますので宜しくをお願いいたします。同室希望のご指名等あれば幹事の方にお伝え願います。

また先日3月4日・5日に開催されるロータリーカップサッカー大会の開催にあたり代表の山口コーチと参加チームの状況、開催要項や賞品の記念メダル、トロフィー等詳細についても佐藤能文青少年奉仕委員長、庄司幹事等と打ち合わせて幸い商品等は鈴由さんで今回よりご対応いただくこととなり、近日商品の発注等万全な準備がまもなく整うところであることもご報告申し上げます。まだ先ですが当日の天候が崩れないことを願うばかりです。というのも10年前のこの大会では会場が大雨で水はけが悪く全自治までの雨がグラウンドコンディションを最悪のものとしてしまいスタッフ総出で早朝からスポンジで水取をしたのですが、開催時刻の2時間前に急遽中止したこともあったので今回の寒波に免じて好天に恵まれることを期待しております。

また、本日会員スピーチいただく葉匠三全の田中史人専務にはお忙しい中ご準備いただき心から感謝申し上げます。後ほど楽しみにしております。

以上会長挨拶と致します。